



学校経営基本方針「こころ豊かに、たくましく」～「共に」語り合い、分かち合い、響き合い、成長する学校～

○ 令和2年度学校評価結果

3 自己評価結果

中項目	小項目	具体的評価項目	目標の達成状況・取組状況	小項目の評価	中項目の評価	評価結果の考察(取組の適切さ)	課題・改善方策
教育課程	①教育目標の設定	教育方針・理念の理解 全職員の参画	○楽し学校に通っている生徒は増加している。 ○コロナ禍の影響もあり、保護者が来校する機会が大幅に減ったこともあり、「学校は保護者の願いに答えている」との回答が唯一75% (他と平均すると80%超える)と他の項目に比べ低い。	4	4	○各行事、全校集会、HP、学校だより等で、生徒・保護者に本校の教育について意識してもらえようとした。コロナ禍という現状もあり、保護者に対し、直接的なかわりが制限されている難しさがあるが、方法を工夫し、現在の取り組みを継続すると共に、繰り返し広報活動に取り組むことが必要と考える。	○『自立』のあるべき姿の理解が教員、生徒、保護者とその理解がまちまちである状況が見取れる。その問題に向き合いながら、地域・家庭とともに共有し、そのために今何が必要を見つめ直し、地域・家庭とともに連携・協働しながら社会に開かれた教育課程を目指す。
	②教育課程の編成	学校の現状を踏まえた教育課程の編成		4			
教科指導	①個に応じた指導	個に応じた学習指導 「わかる授業」の推進 学習形態の工夫・改善	○生徒の回答として「授業が分かりやすく楽しい(81%)」「先生は教え方にいろいろな工夫をしている。(95%)」と高評価である。コロナ禍の中でも学習形態を工夫したり、電子黒板・タブレット等のICTを積極的に導入したりしてきた。 ○保護者の回答としては、学習指導に関して60～87%と評価が高く、生徒の評価と真逆な結果が出ている。 ○生徒の評価で、「先生へ質問しやすい」の項目が例年低く、68%になっている。大規模な学習会を今年実施できなかったことも影響している。	3	4	○学習に関しての意識の低さをどう改善していくかが最大の課題である。授業の質を向上させる取り組みと平行し、生徒の学習意欲を高め家庭学習をどう充実させていくかが鍵である。 ○小学校低学年から、学習内容がわからず中学校の難しい学習内容に耐えられない生徒も多くおり、簡単に諦めてしまう生徒がいるのも事実である。そのような生徒にいきなり学びの楽しさやわかる喜びを味わえるようにするかが課題である。	○RSTの活用とその視点に立った授業実践の推進 ○ユニバーサルデザイン的な授業の工夫 (ICTの活用・実物やモデルの活用・座席配置の工夫など) ○少人数指導の充実 ○学習コンテントを活用したドリル学習の支援 ○教科相談・自主学習タイムの在り方を見直しより実効あるものにする。
	②評価	評価・評定の客観性、信頼性の確保 評価に基づく指導		4			
道徳教育	①道徳の時間	道徳の時間の充実	○毎時間の道徳の授業の取り組みにより、保護者・生徒共に9割を大きく上回る好評価を得ている。	4	4	○ボランティア活動、福祉体験など学校教育全体を通した道徳教育がコロナ禍により、実践できなかった。次年度は単純に中止することなく、実施方法を探り、形や方法を変えながら実践し、心の教育の充実につなげていく。	○道徳教育推進教師を中心として、重点項目の精選、別業の見直しなどを行い、指導の充実へ努める。
	②体験を通した道徳	体験に根ざした道徳性の育成	○教員アンケートの「年間計画に基づき道徳の時間の充実を図っている」という項目において他の項目に比べ低い。	4	4	○道徳の授業を核とした道徳教育という点では、教職員の意識を高める必要があり研修機会を持ちたい。	○道徳の教科化に伴い、考え議論する道徳の授業や評価の在り方について教職員間で研修を深める必要がある。
	③社会規範の育成	社会のルールやマナーの育成		4			
特別活動	①魅力ある学校行事	児童にとって魅力ある学校行事へ	○限られた行事だったが、時期や規模を工夫し、コロナ禍の中実践できた。保護者・生徒共に好評価を得ている。	4	4	○生徒たちはコロナ禍の中でも前向きに学校行事に取り組めた。制限や時間短縮等で理不尽な思いをしたと思うが各行事での生徒の表情が明るかった。1つ1つの活動で成長しているのがうかがえる。今後とも生徒の成長につながるようねらいを明確にして取り組む必要がある。	○昨年引き続き、生徒の主体的な活動、活躍の場を設定し、成功体験に結びつくような行事づくりのためにも、職員会議等で行事の目的や教職員の役割分担など綿密に計画し、子どもたちの成長の場を確保する必要がある。
	②主体的活動	児童の主体的な活動への支援	○保護者アンケート全体の中でも「子どもたちの積極的な行事参加」が95%と1番高い。	4	4	○各種行事等における生徒の活躍の場とリーダーの育成、ひいては自立に向けての教師の支援のあり方等について年度当初、行事の度々に共通理解を導く必要がある。	○コロナ禍における行事の精選を継続させ、かつ膨れ上がった教育課程を多忙化解消の視点で精選する視点で総合的に行事のスリム化を進める必要がある。
	③進路指導	勤労観、職業観を身につける取り組み	○職業活動や職業シボジウム等の指導もあり、生徒アンケート「先生は将来の進路や生き方について教えてくれる」が99%と高評価である。それに対し、職業シボジウムの規模縮小の影響が、保護者は71%と開きがある。	4			
生徒指導	①組織的な生徒指導	生徒指導体制の整備	○昨年、今年と2年連続で教職員の半数が変わり、保護者からも指導方針が変わったこと等に関する不満が若干あり、生徒のアンケート結果はすべて9割超えをしているが、保護者アンケート結果は各項目で7割～9割とばらつきがある。	4	4	○担任を始めとして各教員が、生活アンケートや教育相談の実施の他、随時、生徒の悩みに寄り添い、支えてきた。長期欠席する生徒も、前向きな気持ちで登校している生徒が多い。	○2年間において大半の教職員が変わったので、生徒指導全般について、随時共通理解を図りながら進めていく。特に教育目標「自立」の達成に向けての指導のあり方については年度当初に時間をかけて確認する。
	②教育相談・生徒理解	教育相談等への対応 生徒理解のための対応	○生徒指導委員会の持ち方を改善し、企画委員会と内容をしっかり分け実施したことにより、生徒指導に特化した内容で情報交換や相談ができるようになった。	4	4	○大きな事故、ケガは発生していないが、廊下を走る生徒がいたり、歩道にいっぱいに広がって登校する生徒がいたり、更なる呼びかけや指導が必要である。	○相談しやすい環境作りをする。学校だより等で情報を発信し、地域・家庭に開かれた生徒指導に努めたい。
	③安全指導	交通安全、学校生活での事故防止		4			
	④基本的な生活習慣	規範意識の向上に向けた指導		4			
組織運営・情報管理	①学校経営目標・方針	学校目標達成のための明確な方針	○保護者、生徒共にならぬ高い評価が得られた。コロナ禍の中で何となく配りが多い中ではあるが一定の評価が得られていると考えられる。	4	4	○学校だよりやホームページなどで積極的な情報を発信した成果が十分に現れる。	○教職員の多忙化解消については多面的なアプローチにより、取り組みをすすめていく必要がある。
	②校務分掌等の連携	校務分掌、学年との連携	○教職員アンケートでは、この2年間で大幅にメンバーが変わったこともあり、「校務分掌の不明確・不均等感」を感じた者が約67%と低評価となった。 ○教職員の協力体制については、生徒から84%と高い評価を得ている。	3	4	○教員一人一人が担当する業務が多く、負担感が多かったと推測される。生徒数減による教員数の減少、昨年から続いた大幅な教員の異動等の影響が大きかった。	○教職員の多忙化解消については多面的なアプローチにより、取り組みをすすめていく必要がある。
	③個人情報の収集・保護・管理	個人情報の保護	○個人情報の保護についても、ホームページでは生徒の氏名等の掲載などに細心の注意を払い個人が特定されないよう配慮してきた。	4			○教職員の多忙化解消については多面的なアプローチにより、取り組みをすすめていく必要がある。
保護者・地域との連携	①学校情報の発信	ホームページの整備、学校だより等の	○生徒の活躍、学校の活動の様子などを学校だよりやホームページで積極的に発信するにより、すべての項目でかなり高い評価を得られた。 ○コロナ禍によるPTA活動の中止、制限があり、教員の地域活動の参加という点で最低評価の50%となり、保護者アンケート結果もこの項目で最低の74%となった。	4	3	○コロナ禍にあっても学校運営協議会が計画的に機能しており、連携・協働が難しい昨今の状況ではあるが、つながりが保たれている。 ○ホームページや学校だよりでの情報発信により、保護者、地域との連携や信頼関係構築に効果が上がっているものと考えられる。	○コロナ禍の中ではあるが、コミュニティスクールの機能を最大限に発揮し、開かれた学校、開かれた教育課程の実現のためにも、学校運営協議会の改善、地域の教育力・人材活用など、積極的な取り組みを更に進めたい。
	②学校(授業)公開	地域への公開、参観授業の実施		3			
	③家庭・地域との連携	家庭との連絡		3			
施設・設備	①施設・設備の利用	施設、設備の効果的な利用	○学校の老朽化に伴い、生徒・保護者共に80%と他の項目に比べ評価が少し低い。	4	4	○営繕・修理の必要な部分が生じている現状ではあるが、随時、町教委に依頼し改善できる部分については改善してもらっている。 ○休校中の時間を活用し、長年整理できていなかった図書室やPC室、倉庫内の不要物の撤去・廃棄・整理ができた。	○優先事項を吟味し、整備要望を伝え計画的な環境改善に努めたい。 ○ICT機器の導入が急速に進んだ中、有効に活用できるような管理し、運用していきたい。
	②教育環境の整備	日常的な点検や管理 学校教育環境の充実のための取組		4			○教科教室型の施設を有効に活用するという視点とコロナ禍の感染防止対策とのバランスを取りつつ、状況に応じて柔軟に施設を活用していきたい。

項目の評定については、生徒、保護者、教師のアンケート結果等から判断し評価する  
 (4:達成されている 3:ほぼ達成されている 2:あまり達成されていない 1:達成されていない)

アンケート結果の肯定的意見が概ね80%以上を4、60%以上80%未満を3、40%以上60%未満を2、40%未満を1とする。

4 自己評価における特記事項

○本年度から保護者アンケートを紙媒体からe-メッセージを活用し完全デジタル化した。どの端末から回答があったか管理者でも把握できない形で配信すると通知したため、より忌憚のない回答になった。紙媒体での回収でも匿名性はあったが、提出のタイミングや書体等である程度、記入者の特定ができるため、保護者も完全な匿名ではないことをふまえて回答していたと思われる。全体的に評価としてはおよそ10%ダウンした項目が多かった。  
 ○学校目標の4項目「真理・博愛・健康・貢献」の達成状況について本校独自にアンケートを採ったところ、<真理…進んで学習し真理の美しさを追究する生徒>が、生徒76%(昨年比+7)保護者51%(−24)で保護者の評価が大幅に下がった。他の3項目については、生徒が8割、保護者及び教職員は7～8割の達成状況がうかがえた。保護者・教職員の「学習面」に関する項目が9割と比較的低い結果だった原因として考えることは、家庭における学習状況や主体的な学習に関して課題があるものと思われる。特に休校期間で自学が要求される時間が長かったこと、保護者が学校を訪問し授業の様子等を見る機会が大幅に失われたこと等も影響していると考えられる。次年度へむけて、更なる家庭との連携を図り、家庭学習が充実するよう生活改善へむけての支援、指導を強化していきたい。  
 ○ノーティズプレイ運動の取組については、例年の結果と同様まだまだ評価が低い傾向にある。生徒自身の意識を高めると共に、家庭と連携した継続した取組が必要である。

